

植生調査の結果、植生高は 28m、階層は 3 層となっており、高木層はスギ、低木層はイヌガヤ、クロキ、ガクウツギ、草本層はイヌガヤ、ユズリハ、テイカカズラなどが生育している。

被害の概況は、スギ、ヒノキに樹皮剥ぎ跡が観察された。また、隣接する常緑広葉樹林を含めてタブノキ、モミ、イチイガシ、カラスザンショウにも多数の樹皮剥ぎが見られた。林内縦横にシカ道が通っており、低木の枯死木も見られ林床の衰退が顕著である。

4-3 被害状況調査

4-3-1 調査目的及び方法

霧島モデル地域のシカによる被害状況を把握するため、被害状況調査を行った。調査方法は、3-2-3 の九州中央山地における被害状況調査と同じ方法を用いた。

4-3-2 結果及び考察

シカの被害状況調査地点及びその地点における被害レベルを図 4-4 に示した。中央火口丘に近い標高の高いところに被害レベル 3～4 の地点が多く見られ、被害レベルが 0～2 の地点は、霧島地域全体に及んでいた。

図 4-5 は、霧島におけるシカ被害状況（レベル）の割合を示したものである。

森林の衰退状況が顕著となっている被害レベル 4 及び被害レベル 3 の割合が、全体の約 1/3 を占める結果となっている。

被害レベルの 4 や 3 では、天然林の構成種となっているスズタケや草本層等が、シカの採食によって全滅し、一部の構成種が欠けた本来あるべき森林とは異質な状態である。

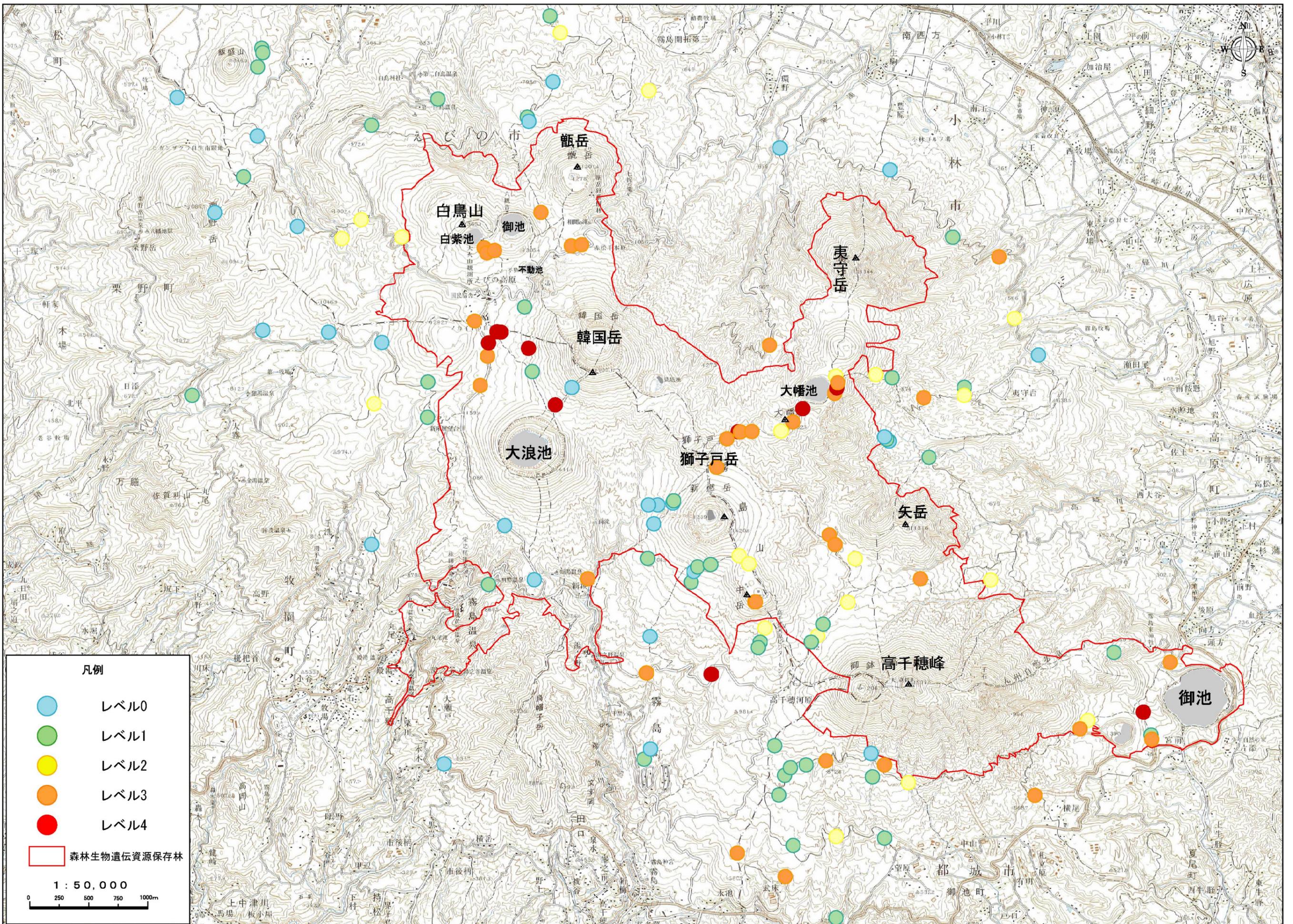


図4-4 シカ被害レベル (霧島山地域)

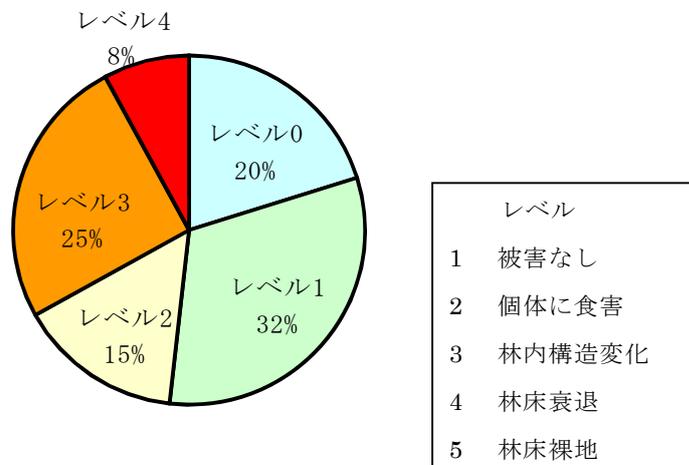


図 4-5 霧島におけるシカ被害状況の割合

シカ被害状況調査において霧島地区で記録した樹皮剥ぎ及び食痕の見られた樹種の一覧を次に示す。(アイウエオ順)

シカによる食痕及び樹皮剥ぎのみ見られた樹種一覧

アカマツ	イイギリ	イスノキ	イチイ	イチイガシ
イヌガヤ	イヌツゲ	イロハモミジ	ウラジロガシ	ウリハダカエデ
エゴノキ	オオカメノキ	カクレミノ	カゴノキ	カラスザンショウ
クロキ	ケヤキ	コシアブラ	コハウチワカエデ	コバノクロヅル
サカキ	サザンカ	シキミ	シロダモ	シロモジ
スギ	タブノキ	タンナサワフタギ	ツガ	ナツツバキ
ネズミモチ	ハイノキ	ハリギリ	バリバリノキ	ヒサカキ
ヒノキ	ホソバタブ	ミズキ	モミ	ヤブツバキ
ヤマザクラ	ユズリハ	リョウブ		

○ 図 4-6 はシカの生息密度の分布と被害状況分布をオーバーレイさせたものである。これを見るとシカの生息密度が高い場所の周辺でシカによる被害が大きい傾向が見られる。

○ 図 4-7 はシカ被害レベルと樹種区分を重ねた図である。

シカ被害は、稜線に沿って多く見られ、被害のレベルも高い。中央火口丘の周辺ではレベル3～4といった高いレベルの地点が多く、植生はモミやアカマツが優占している。

一方、標高の低い地域では被害が少なく、また被害のレベルも低く、植生はスギや

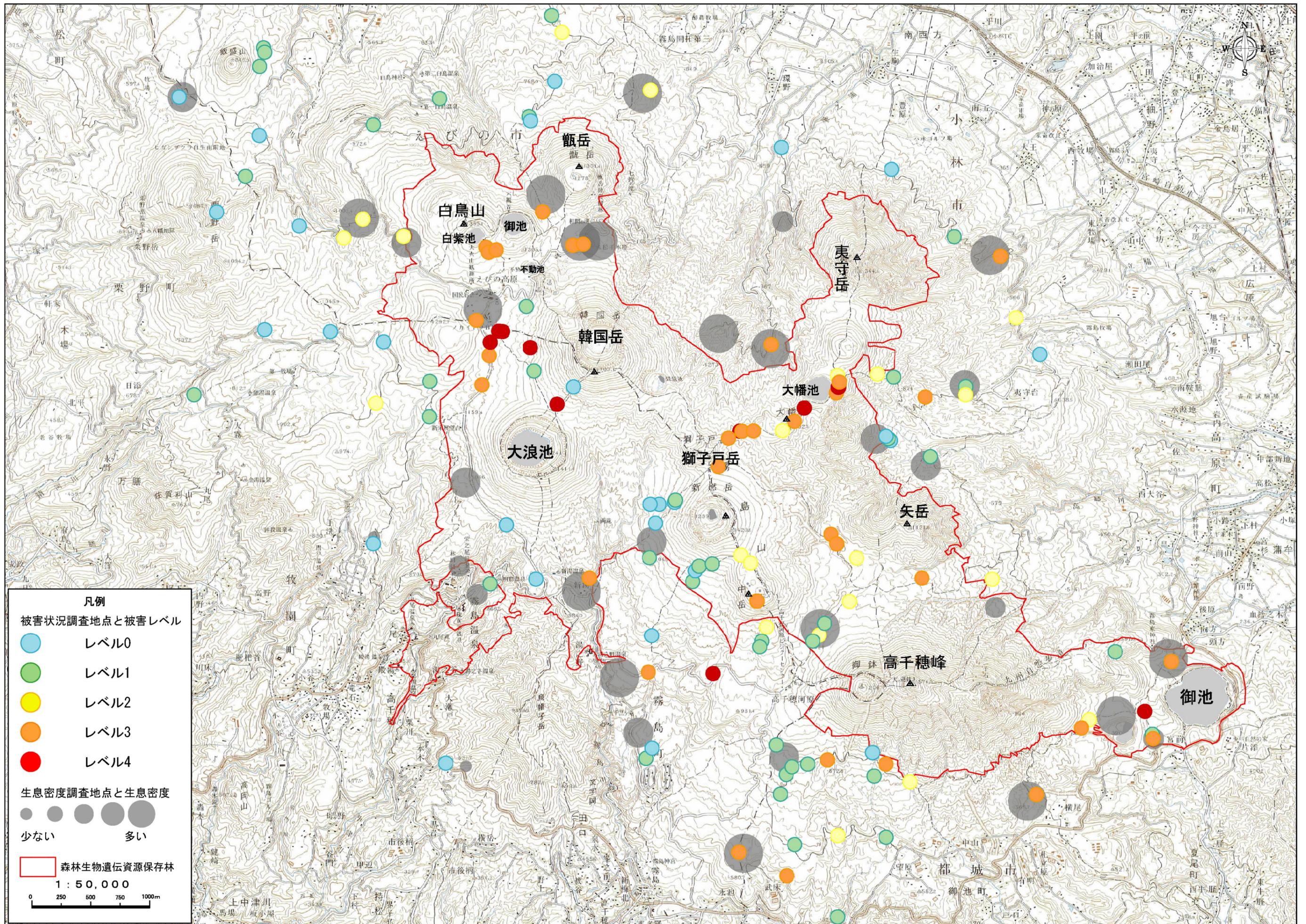


図4-6 シカ生息密度調査および被害状況調査の結果（霧島山地域）